都市交2011年度 第2回中央委員会

～2012春季生活闘争方針を決定～

・・・自治労との産別統合に向け協議開始を確認するとともに、苫小牧、明石、呉、小松島の除籍を承認・・・

二〇一二年二月二十三日（木）、都市交二〇一一年度第二回中央委員会が東京・アジュール竹芝に於いて、中央委員、本部役員五十四人ならびに準組織内議員である熊田あつし衆議院議員を迎え開催されました。冒頭、議長団に宍戸（横浜）・加地（神戸）両中央委員を選出し、続いて本部を代表して高木中央執行委員長が春季生活闘争を取り巻く情勢、特に給与特例法案や労働基本権確立の課題について、さらに、「自治体労働者における公務公共サービスの再生、機能強化や働くことへの期待の観点から事業存続のために公共サービス労働者との大同団結が大変重要である。」と挨拶に立ち、議事へと進行しました。主な活動報告と議案第一号は吉田書記長（東京）、会計報告は浅野副執行委員長（名古屋）、監査報告を角田監査（函館）からそれぞれ報告・提案され全体の拍手で確認しました。また、議案第二号の春闘方針については林崎副執行委員長（横浜）が提案し、これまでの議論経過を踏まえて中央における自治労との産別統合に向けた具体的な協議をすすめることを確認し、公務・公共サービス全体の拡充・発展を図っていくことを承認しました。質疑では中山（大阪）中央委員から、大交を取り巻く情勢として、「根拠のない賃金カット問題や不当労働行為に対しては断固闘う。」と報告があり、大阪だけの問題として特化することなく都市交全体で闘うことを確認しました。議案第三号・四号では、半世紀以上にわたり都市交の一員として都市交労働運動に貢献してきた苫小牧・明石・呉ならびに小松島の四単組を事業廃止等に伴い除籍を確認しました。最後に、高木中央執行委員長の発声のもと「団結がんばろう」で中央委員会を終了しました。

中央委員会冒頭挨拶に立つ
高木中央執行委員長

呉
光宗執行委員長

苫小牧
片倉執行委員長

明　石
吉田執行委員長

来賓挨拶に立つ
熊田衆議院議員

～団結ガンバロウ～

2012 春季生活闘争の重点課題

1．公営交通事業の維持・存続、交通政策要求の実現を図る取り組みの強化
2．国民の移動する権利を保障する交通基本法制定の取り組み強化
3．「安全・安心・信頼の一声運動」の継続
4．雇用確保、生活を維持・改善する春季生活闘争の推進
5．高齢雇用制度確立に向けた取り組みの強化
6．労働基本権・自律的労使関係制度の確立
7．国民生活を支える「公共サービス基本条例」制定の取り組み強化
8．「働くことを軸とする安心社会」の実現
9．組織強化に向けた都市交組織の総点検
10．各種地方選挙勝利、総選挙闘争態勢の準備

京交
京都交通労働組合
電話(075)841－0948
発行者　瀬戸高志
編集者　佐田　悟

・・一　面・・
・都市交2011年度
　第2回中央委員会
・都市交
　～2012春季生活闘争学習会～
・都夢ちゃんのひとり言
・・二　面・・
・連合京都2012春季生活
　闘争勝利総決起集会
・教宣部員のつぶやき
・竹とんぼ

都市交～二〇一二春季生活闘争学習会～

二〇一二年二月二十二日（水）・二十三日（木）の二日間、都市交「二〇一二春季生活闘争学習会」が東京・アジュール竹芝に於いて開催されました。第一講座は都市交顧問弁護士である五百蔵洋一氏から、「労働組合における危機管理対応について」と題して講演をいただき、メディアからの取材や交渉などの場に於いて、口頭での回答や自分一人の考えで即答などせず、文書でのやりとりに徹し複数の人間でチェックすることに心掛け、焦らず対応することが重要であると教授していただきました。第二講座は公益財団法人地方自治総合研究所の菅原敏夫氏から、「地方公営企業会計制度の見直し案の概要とその影響等について」、公営企業の借入金は自治体の一般会計からの借り入れなどで賄っているため、これまでは貸借対照表の資本に計上していたが、今後は負債に変更。職員の退職給付や賞与、修繕費などの引当金も負債に計上し、隠れ債務を表面化させる。また、施設建設費に充てた補助金を減価償却の対象外とし、期間損益の赤字を減らす要因となっていた「みなし償却」は廃止し、一四年度予算で一斉に新制度に切り替えるスケジュールであると説明があり、地域主権という美名の下、事業潰しの法案が通ってしまったと報告がありました。第三講座では、「労働組合法における便宜供与の考え方と地方公営企業職員の組合と地方公務員組合の違いについて」宮里邦雄顧問弁護士から、大阪市労連の事案を交えながら分かりやすい説明がされました。なかでも、便宜供与を求める権利の有無と一度認められた便宜供与の廃止は区別して論ずる必要があるということや、労使の合意や許可あるいは慣行・協定（協約）によって認められた便宜供与は権利性があるなど、過去の実例とともに教示していただきました。ただ、正常な労使関係を構築することこそが一番重要であるということも付け加えられていました。最後に記念講演として、テレビ・ラジオなど各方面で活躍されている国際政治学者の浅井信雄氏から、「私たちの暮らしはどうなるか～激動の時代をどう乗り越えどう対応するか～」と題し講演いただきました。浅井氏は主に中国を重点的に取材・研究されていることから、中国と世界との関係や日本との関係など、中国が世界で果たす役割や問題点など様々な角度から明快な解説をしていただき、充実した学習会を終えました。

学習会に先立ち挨拶に立つ
髙木敏雄中央執行委員長

五百蔵洋一
顧問弁護士

地方自治総合研究所
菅原敏夫氏

宮里邦雄
顧問弁護士

国際政治学者
浅井信雄氏

都夢ちゃんのひとり言

ハイリスクな法案

「マイナンバー」法案が国会に提出された。これはより的確な社会保障サービス給付を実現するため、国民一人ひとりに番号を割り振って所得や医療・介護などの情報を一元管理しようというもの。だが平たく言えば国民総背番号制だ。ずいぶん昔、この制度に反対する運動が全国各地で展開された。あの時の反対側の主張の基本は、個人が数字に置き換えられ、すべての情報が国家に管理・監視されることへの危機感だった。その後も国民総背番号制は手を変え品を変え何度も浮上し消えたが、二〇〇四年にその第一段階ともいえる住基ネットが、個人や一部の自治体の反対を押し切って本格稼働されている。さて今回の「マイナンバー」法案。社会保障と税の一体改革を見すえた政府が、個人情報管理は必須と判断し一気に押し進めてしまったようだ。だが議論は尽くされたのか。否だ。その証拠に国民の八割がこの法案内容を知らないと言う。政府はメリットを強調するがこのネット社会、情報漏洩の恐れはつきないし、その先には想像を超えるリスクがある。そして被害を被るのは私たち一人ひとりの国民だ。人ごとではすまされないこの法案。国民的議論はまったなしだ。

連合京都 2012春季生活闘争勝利総決起集会アピール

2012 春季生活闘争は、いよいよ最大の交渉局面を迎える。

格差拡大と貧困によってもたらされた日本社会のひずみと不安は、もはや限界を超えている。早期に、デフレと経済縮小の悪循環を断ち切り、日本経済を自立的成長路線に回帰させなければならない。連合は 2012春季生活闘争において、危機を乗り越えるための原動力は「人」であり、組合員の意欲・活力を引き出すためにも「人への投資」が必要であると訴え、闘いを進めてきた。しかし、経営側は「総額人件費抑制論」を前面に組合要求をはねつける姿勢で臨んでおり、断固として跳ね返さなければならない。

連合は、生産性向上や震災からの復旧・復興に向けて、懸命に取り組む組合員の努力・成果に報いるためにも、最大限の誠意をもってわれわれの要求に応えることを経営に対して求める。すべての組合がおかれた環境のもと、１％を目安に適正な配分を要求し、すべての労働者の処遇改善に向け、未組織、パート労働者を含むすべての働く仲間に闘いの輪を広げる取り組みをすすめる。

政策制度については、以下の６つの課題を軸として、すべての労働者の生活改善・格差是正をはかる。すなわち、①新成長戦略の推進による雇用創出・人事育成、地域活性化に向けた中小企業・地場産業等の育成・支援、②安心社会を支える社会保障・税の一体改革の実現、③生活できる水準へ最低賃金の早期引き上げ、④非正規労働者の均等・均衡処遇の確立、⑤民主的な公務員制度改革と労働基本権の確立、⑥公契約基本法と条例の制定を含む公契約の適正化である。

さらに、今なお懸命な努力が重ねられている東日本大震災の被災地に向けて、私たちには何が出来るのか。「絆」と「つながり」が与えてくれる「ぬくもり」と「力強さ」を再確認し、復興に必要な負担を国民全体で分かち合い、被災地産品の購入や被災地を訪れる活動など、日々の暮らしの中で被災地を意識する活動を継続的に進めよう。私たちは決して東日本大震災、そして被災地・被災者のことを忘れない。

2012春季生活闘争は大詰めを迎える。連合に集うすべての労働者がその役割と責任を自覚し、あらゆる手段を尽くして納得できる答えを引き出す闘いを進めよう。連合京都は、本集会の名において、“つながろう日本”を合言葉に復興・再生に向けて全力を尽くすことを誓うと共に、すべての者の生活維持改善に向け、一人ひとりの力を一つに結集し、最後まで闘い抜くこと宣言する。

2012年３月９日

連合京都 2012春季生活闘争勝利総決起集会

連合京都二〇一二春季生活闘争勝利総決起集会

復興・再生に全力、「働くことを軸とする安心社会」を実現しよう！
～復元、格差是正、底上げ・底支えでデフレ・縮小経済からの脱却を～

二〇一二年三月九日（金）、連合京都各産別の組合員二五〇〇名が集結するなか、「連合京都二〇一二春季生活闘争勝利総決起集会」が円山野外音楽堂で盛大に開催されました。京交からは最大動員の組合員が参加し、集会終了後のデモ行進では、街宣車に乗り込んだ山本自動車部長、伴野電車部長のシュプレヒコールのかけ声のもと、本部旗はじめ支部の幟十一本、連合京都の幟、横断幕二枚、アピール幟四本を高らかに掲げ、京都市役所前まで京交の存在を大いにアピールしながら行進し、成功裡に終了しました。

円山野外音楽堂メインステージ

集会に参加した京交組合員

～デモ行進出発～

四条河原町交差点を堂々の行進

教宣部員のつぶやき

私には大事にしている言葉があります。それが、『虚心坦懐』です。意味を辞書で調べると、「心になんのわだかまりもなく、気持ちがさっぱりしていること。心にわだかまりがなく、平静に事に望むこと。また、そうしたさま。（三省堂「新明解四字熟語辞典」より）」と書かれています。就職するまでは、個というものを強く持って、他人の意見にあまり左右されることなく生きてきましたので、自分の意見がどうしても優先しがちになり、自分とは全く正反対の意見を素直に聞き入れることが難しかったように思います。しかし、就職してからは組織の一員として働いていくわけですから、組織としての意見が優先され、自分の意見が通らないことはよくありますし、ましてや組合役員となると、自分の意見よりも優先して、多様な意見を集約しながらも良い意見を抽出していかなければなりません。そのようなときに、『虚心坦懐』という言葉を思い浮かばせます。心にわだかまりがあり、ありのままを素直に受け入れることができないでいると、良い意見を見過ごす場合があります。常に、平静に物事に臨まなければ、意見を集約できないことはおろか、悪い意見に駆逐される恐れがあります。組織としての最高の着地点を考えていくとするならば、『虚心坦懐』を継続することが大事と言えます。自分が完璧にこの言葉を実行できているかと言えば、完璧とはとても言えたものではないですが、少しずつ完璧に近づけていけるように、継続してステップアップしていけるように、精進していく所存です。

山野　順大

竹とんぼ NEWS

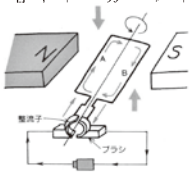
第11号
発　行　高速鉄道部車両工場 竹田検車区・修車区
責任者　山田哲也
編　集　黒川陽平 山田大介 荒方利浩 後藤浩一
顧　問　湯浅敏雄
Adviser　井上一夫 石田房一
〒612-8429
京都市伏見西段ノ川原町18番地
電話　075-642-4332
職場相互の親睦と資質の向上を図るとともに、職員の意識の向上、コミュニケーション力の向上を保ちつつ、職場発展を期するを目的とする。

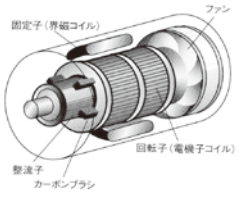
月検査@モータ点検

今回は、月検査で行っているモータ点検をご紹介します。

電車の駆動用モータには大きく分けて「直流モータ」と「交流モータ」があります。鳥丸線10系車両は直流モータが使われており、東西線50系車両は交流モータです。直流モータはメンテナンスが必要で、交流モータは、ほぼメンテナンスフリーです。

だったら交流モータの方が良いじゃないか、となってしまいますが、交流モータの場合、半導体やコンピュータによる制御が必要で、昔





フラッシュオーバーを防げ！

直流モータは構造上、「フラッシュオーバー」と呼ばれる故障が発生するリスクを抱えています。

その一例ですが、たとえばモータの接触面「整流子面」と、カーボンブラシとの接触で通常よりも抵抗が大きめだったとします。すると、初めは小さめですが「アーク（火花）」が発生し、どんどん整流子面を痛めてしまいます。この状態が長く続くと、やがてもっと大きなアークが発生し、カーボンブラシが短絡（ショート）を起こして焼損してしまうのです。

検車区でも長年フラッシュオーバーに悩まされてきました。現在では、対策として「カーボンブラシの磨耗量調査」「整流子面の研磨」を行っています。

室内から見た整流子面の様子

カーボンブラシの減り方が通常よりも早い場合、整流子面の状態が良くないと考えられます。そこで予防対策として、整流子面の研磨を行うわけです。具体的には、砥石で一周磨いて真円に戻し、表面も綺麗にする、といった事をしています。

やはり安心・安全のため、早め早めに予防しておくに越した事はないっ！ということですね。

ここまでやるか！～モータの効率のおはなし～

鉄道は環境に優しい乗り物だと言われ続けていますが、電車を動かすための主電動機、モータの効率について考えてみましょう。

効率とは、出力に対する入力の比率であり、この差が損失です。つまり効率を高くするためには低損失のモータを開発しなくてはなりません。

鳥丸線10系車両では直流モータなので、効率は【90%】の値でした。

東西線50系車両では開放型の誘導モータを採用して、【92%】まで向上させました。

「えっ、わずか2%…」と思わないで下さい。もともと使う電気代が相当な量なので、この差はケッコウバカになりません。技術者はこのわずか数%のために日夜がんばって来たんです。

最近では、全閉型モータ【95%】や永久磁石同期モータ（PMSM）【97%】も鉄道車両に採用されています。

ちなみに実技術フォーラムでは、重電機メーカーのベストスコアのせめぎ合いが、傍目にはとてもおもしろかったです。

電動修車区長　赤松義雄

大改修！MG→インバータ更新工事！

皆さん、電車の照明やクーラーを動かす電気は、どこから持ってきていると思いますか。パンタグラフからの直流1500Vをそのまま使っているのでしょうか。いや、ちょっと電圧が高すぎますよね。それに照明やクーラー等は基本的に交流で動かします。

実は直流1500Vを「三相交流200V」に変換」して供給しているのです。10系車両でその変換する役目を果たしている装置が「電動発電機」（Motor Generator、以下MG）です。つまり直流1500Vでモータを回し、これと一体の発電機を駆動して交流200Vを発生させています。

電動発電機（MG）

今年度、地下鉄は開業30周年を迎えました。車両も一番古い1、2次車で30年使われており、いろんな装置が老朽化しております。もはや製造中止になっている部品も少なくありません。MGもこの憂き目に会い、制御装置のサイリスタが入手不可能になりました。

そこで1、2次車のMGを、東西線50系車両でも使用している「インバータ方式」に置換える計画を立てました。この計画は今年度から、4年に一度の全重検入場に併せて7年越しで実施する事となります。

インバータは、回転するMGと異なり、半導体による電流の入切によって直流を交流に変換する装置です。機械部分が皆無で、「高効率」（約10%向上）「低騒音」（約10dB低下）「保守軽減」等の長所を有します。

MG関連機器の取外しの様子

工事の主な内容は次のとおりです。①両先頭車に載せている2台のMGを廃止し、代わりに中間車にインバータを取付ける。②車体の左右・前後の重量バランスが変わるので、測定及び調整を行う。③新たに発生する雑音による信号通信機器関係への影響を調べるため、誘導障害試験を行う。

インバータ取付完了！

現在、全重検入場中の03編成では、①の取付工事は既に完了し、試験・調整を行っております。3月からは、③の誘導障害試験に取組む予定となっています。

車両工場長　岡本　孝

京都市消防学校レスキュー訓練！

1月23日、24日に京都市消防学校の列車事故対応訓練が、竹田検車区内で実施されました。

工場長による事前説明

消防関係者合計37名での訓練で、「車輪に挟まれた人を救出する」ことが目的の訓練でした。ですので、一番即応性が高いと思われる「軸箱（車軸の先端）を使ったジャッキアップ」を中心とした訓練が行われました。エアバックと枕木を使い、何回も試行錯誤して進められていました。途中、枕木が割れるアクシデントもありましたが、予定通り無事終了しました。

普段、検車区で行っている脱線復旧とは目的が違うので、車輪を持ち上げる手法は違いましたが、声の出し方や基本動作など、こちらも見習う点がたくさんありました。万が一事故が起きた場合は消防関係者の皆さん、人命救助を宜しくお願いします！

車輪を上昇させる様子

ひさびさ！ラスト？ 工場車両の○○な話

【10系車両のマニアな話】編

鳥丸線の車両で「デザインが違う扉」があるのをご存知でしょうか。扉の予備品の在庫が少なくなり購入することになったのですが、「新造時と同じデザインを今は製作をしていない」ということ。そこで、新しいデザインを採用することとなり、「他の内装と違和感のないデザインの検討」を始めた。

当初の設計担当者、現在の設計担当者および現場担当者など、数人で小さな色見本を扉の横にいくつも並べて「これが良い、これも良い、いやいやこれも良い、これはちょっと違和感がある」などなど、何日もわたって検討した。最終的には多数決で、えいやー！で決めたが、扉が付いてみなければわからないな、と。実際に交換が完了した車両の扉を見てみると…まったく違和感がない。「この型番にして良かった～」と全員で安堵した。

その後、車両が走る「外観」を見た。交換した車両だけ新品の扉がついているので…古い外板とかなり違和感があった。あ～あ、残念。外観は盲点だった。さて、どの車両か皆さんお解かりでしょうか。ヒントは「3両目と4両目」です。